

平和憲法・9条をまもる 岩手の会 ニュース No.247

2026. 4. 27

発行：平和憲法・9条をまもる
岩手の会 実務者会議

連絡先 県生協連・県消団連

TEL 019-684-2225

FAX 019-684-2227

「沖縄の真実を伝えるために」

—「ピースアクション in オキナワ」いわて生協参加報告—

沖縄戦の実相と現在の沖縄が抱える基地問題を学び平和について考える機会として、3月25～27日に全国から生協組合員約200人が集まり、「ピースアクション in オキナワ～沖縄戦跡・基地めぐり～」が開催されました。

92歳の玉木利枝子さんの沖縄戦体験は、想像を絶するものでした。「空襲は警報が鳴って防空壕に逃げるもの」という私のイメージとは全く違い、沖縄戦では、爆撃で家を追われ逃げた人々が壕で暮らしており、さらなる爆撃に日夜さらされていたのです。昼は真っ暗な壕で過ごし、夜になってから外に出て食べ物を探す毎日。爆撃が凄まじく、外は死体だらけで、踏まずに歩くことすら困難な状況だったそうです。また、玉木さんのおじいさんは戦場を逃げるうちに爆撃で負傷、「足手まといになるから」と自決したそうです。その声が今も忘れられないという玉木さんの言葉に、胸が締め付けられました。

さらにガイドの方からは、「兵隊は住民を守るためではなく敵と戦うために存在し、いざとなれば住民を盾にして身を守った」という衝撃的な事実も教わりました。しかしその兵隊たちも、全国から徴兵されて来た農民たち。市民や農民が苦しんでたくさん死んでいったのです。「戦争というのは、普通の市民が苦しんで死んでいくものなんだ」ということを、あらためて強く感じました。



現在の沖縄も、基地の存在に起因する自然破壊や米兵による犯罪、騒音といった問題に今なお悩まされ続けています。前泊博盛教授（沖縄国際大学）による学習講演では、「中国から日本への経済制裁が始まっている現在は、すでに戦争の前段階。しかしほとんどの日本人がその事に気づいていない。そして憲法9条が変わればいよいよ徴兵制が始まってしまう」という強い危機感が語られました。

有事の際には日本で4千人を超える犠牲者が出るが、その多くが沖縄の住民だという説もあります。こうした現状を他人事にするのではなく、自分事として強い関心を持って向き合わなければならないと痛感しました。「本土を守るため」という理不尽な理由で沖縄が多く犠牲を出した事実を、私たちは知る必要があります。現地で学んだ者として、私にはこの真実を多くの人たちに「伝える役割」があります。これからの日本の安全な暮らしを守るため、様々な角度から沖縄の真実を伝えていきたいと決意しています。（盛南コープ理事 小池佳子）

《お知らせ①》

「九条の会東北交流会」（オンライン視聴）5月30日（土）13:00～16:30

今年度の「九条の会東北交流会」は、福島がメイン会場です。当日の様子は、YouTubeでライブ配信します。盛岡では会場を設けて大画面で視聴をします。参加無料 参加締切 5/22

ライブ配信 URL <https://youtube.com/live/5Ii1pfHK8Z8>

盛岡視聴会場：岩手県高校教育会館（盛岡市志家町）3階 大会議室

内容：「高市政権による9条改憲・戦争準備の企てに」渡辺治さん（一橋大学名誉教授、九条の会事務局）講演、東北各県の取り組み交流ほか。

※お申し込みの際は、盛岡会場参加か、ご自宅等でライブ配信視聴か、お知らせください。

◇お申し込み・お問い合わせは、岩手県生協連まで TEL 019-684-2225



